

栃木県原水協ニュース

No 196号 2019年11月1日
 原水爆禁止栃木県協議会
 〒321-0138 宇都宮市兵庫塚3-10-30
 栃木県労連気付 電話 028-653-1401
 メールアドレス: tcgken-gensuikyo@outlook.jp

宇都宮市原水協が「ふたば健康まつり」でパネル展・署名活動



10月27日、栃木保健医療生活協同組合はふたば診療所で「健康まつり」を開催しました。会場の入り口付近で、宇都宮市原水協は、原爆パネルを展示し、折り鶴を折るコーナーで「ヒバクシャ国際署名」を訴えました。数組の小学生との親子連れがパネルを熱心に見つめて、特に「焼き場に立つ少年」の前に佇み言葉を交わしている様子が印象的でした。この写真は1昨年ローマ法王が「戦争がもたらすもの」と世界に訴えたことでも知られています。

「機会あるごとに核兵器のない平和で公正な世界の実現のために力を尽くしたいです」とパネル展を催した団体の方が決意を述べていました。

「ヒバクシャ国際署名」高校生・町民に働きかけて3年、恒例の6・9行動

来月4月にニューヨークで開かれる「NPT再検討会議」を前にして、那須町では3年前から毎月6又または9の日、町役場前のスペースで「バクシャ国際署名」の行動を行っています。これは駅から学校への通り道になっていることもあり、若者が署名に協力してくれるのです。先月も午後3時頃、いつものようにオカリナを吹いて3人が署名を呼びかけていると、男子生徒3、4人が通りかかり、快く署名に応じてくれました。那須町では4年前から、町として毎年8月に10名の中学生を広島に派遣する事業を実施していますが、今年には派遣された生徒全員が広島での貴重な体験を感想文としてまとめ、庁舎一階ロビーに展示するとともに広報にも掲載しました。

「那須町班」では、町内の各団体にも呼び掛け、さらに規模と回数を増やして来月4月にむけて「ヒバクシャ国際署名」に取り組んでいきたいとおもいます。(県北原水協・那須町班)

宇都宮市生活と健康を守る会が10月23日、毎月定期的に行っている宇都宮協立診療所玄関前での宣伝行動で、「ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える国際署名」も同時に行い短時間で8筆の署名を集めることができました。



「栃木保健医療生協宇都宮協立診療所世界大会報告集」を開催

小松宏生さん被爆体験語る 十月三十日、宇都宮協立診療所を会場に八月に開催された二〇一九年原水爆禁止世界大会の報告集が開催されました。

那須烏山市在住の被爆者、小松宏生さんの被爆体験のお話と三人の報告者のこの集いに三人の参加がありました。

小松さんは、原爆でお父さんと祖母、いとこが犠牲になられています。お話は、疎開先から原爆の黒い雲が見えたこと、両手から焼け爛れた皮膚が垂れ下がっておばあさんがたどり着いてこられたが苦しみがらその夜には亡くなられたこと、お父さんを探しに広島市内を探し歩き回って被爆したことなどを話していただき、絶対に戦争だけは阻止しなければなら

「ヒバクシャ国際署名」数 (栃木県原水協集計分)

諸団体	北原水協	3,016筆
	南原水協	1,099筆
	宇都宮市原水協	1,351筆
	非核の会	1,911筆
	新婦人の会	9,171筆
	民医連	2,142筆
	保険医協	6,004筆
	県原水協	1,337筆
	小山推進委員会	1,400筆
	非核下野市の会	2,664筆
自治体	県 労 連	28筆
	栃木県平和委員会	54筆
	鹿沼原水協	332筆
	日光市	953筆
	下野市	494筆
	栃木市	83筆
	小山市	109筆
	小上川	160筆
	壬生町	165筆
	合計 (11/1 現在)	19,530筆

ないと強調されました。医療生協参加者三人は報告集会用の資料集も作成し、写真をスライドで放映しながらそれぞれが報告を行いました。また、参加者の中に祖父が被爆者で、長崎出身の研修中のドクターも居られました。

最後に来年の3・1ピキニデー集会、ニューヨークでの世界大会、平和行進、原水爆禁止世界大会に代表を送ろう、「被爆者署名」をさらに集めようと訴えて散会しました。



第44回定期総会のお知らせ

2019年11月16日(土) 13:30~16:30

宇都宮市国本地区市民センター 1階

第1部 学習講演

講師 安井正和 日本原水協事務局長

「ニューヨーク世界大会へ ヒバクシャ国際署名の飛躍を」

第2部 総会 15時~16時30分

